



いすみスタイル.com

ドットコム

いすみスタイル

NPO法人いすみライフスタイル研究所が発行する、いすみライフを応援する不定期刊のニュースレターです。WEBサイト「isumi-style.com」より抜粋してお届けします。

いすみの魅力

パン屋さん特集 2

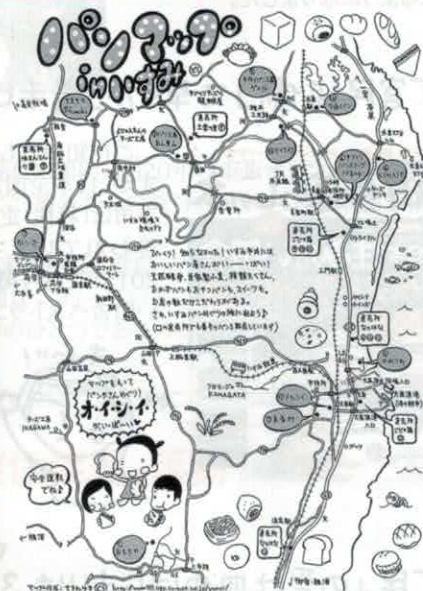
「パンマップ in いすみ」できました

当NPOのスタッフが、いすみ市内にある手作りパン屋さんを調査しました。全部で12件の手作りパン屋さんがあることがわかりました。皆さんにも美味しいパンを食べていただきたく、地図にしてみました。「チーズマップ in いすみ」に次ぐ、いすみマップシリーズ第2弾、「パンマップ in いすみ」です。

地域情報の発信をやっていると、まずはこの地域の特産品である「いすみ米」がクローズアップされるのですが、意外や意外。美味しいパン屋さんがこの地域にもあるのです。

どのパン屋さんも、作り手さんのこだわりにあふれ、持ち味を活かしたパン作りをされています。チーズとの相性もばっちりですよ。大原漁港から揚がる海産物とも。お米だけでなく、「いすみのパン」も楽しんでみてください。当NPO事務所に置いてあります。

マップのイラストは、チーズマップと同じ、せきねゆきさんです。



国産小麦パンの店 麦香村(ばっかそん)



いすみ市役所大原庁舎からほど近く、赤い看板が目印の国産小麦パンの店麦香村(ばっかそん)があります。

開店当初から、国産小麦を使い『とにかく安全で、おいしいパンを食べてもらいたい』という一心で、遠藤光孝さんと直美さんの夫婦二人でお店を切り盛りしてきました。ご主人は独立する前、いくつかのパン屋で修業し、学んできたことを応用して、今の麦香村のパンがあります。複合熟成法で自家製酵母などを使い分け様々なパンを焼いています。

また、パンだけでなく、お客様とのやりとりの中で生まれてきたものもあります。それは「夏目漱石のソーダビスケット」(¥200)と「紫蘇入り菓子」(¥170)です。昔の人が食べたであろうレシピを再現してみる、そんな遊び心が麦香村にはあります。そして、奥さんが書いた「ぼくの名はハル」はお店の常連さんと震災後、福島からやってきた犬の物語を書いた本。「時間が無限にあったからって書けるもの

じゃなくて、私の場合、あらゆる分野のものを自分のペースで書く。中にはお客様とのやりとりからヒントになるものもあり、物を書くということは、パンの仕事と同じように楽しい」と話していました。二人の人生にパンはかかせないけど、パンだけじゃない。いろいろな人との交流を楽しみ、麦香村という場所を生き生きとした場所になっているのは、力まず、でも真面目にパン作りをして、日々暮らしを楽しむ二人の生き方そのものだなと感じました。

国産小麦パンの店 麦香村(ばっかそん)

住所:いすみ市大原7110
電話:0470-64-1108
営業時間:7:00~19:00
定休日:月曜日・第2、第4日曜日
※お昼に焼き上がりが増えますので、12:00前後来店がオススメです!



KONATE



国道128号線にある白い小さなパン屋さん「KONATE」は2009年9月にオープンしました。お店の名前の由来は「粉・手」。宮本望さん、千恵さんご夫婦でパンを焼いています。

ご主人は東京都出身。奥様は大原出身で、一緒にお店をやろうとなった時、奥様の実家にも近く、よくサーフィンに通っていたご主人にも馴染みのあるいすみ市を選んだのは自然な流れだったと言います。

店内では、常時40種類のパンが並べられています。お客さまからの声から生まれる商品もありますが、定番商品の改良にも力をいれていて、オープンから変わらないメニューが自慢の一つ。「同じものでもどんどんおいしいものに高めていきたいのです。いつも同じものを購入されている方に『最近ますますおいしくなったね』と言われるのがうれしいです」。

友人に書いてもらった手書きのメニューも好評です。4坪の小さな店内では自然とお客様同士の会話も生まれています。

宮本さんの今の目標は、『はやりすたりに流されない、何年先も長く愛される商品をつくり続けていく』こと。子どものころに食べていたパンを大人になってまた食べに来てくれるような、「当たり前」のパンになれたらいいな、と言います。地域の人に愛されるおいしさを追い求め続ける「いつものパン」のこれからが楽しみです。

KONATE

住所:いすみ市和泉3088-4
電話:0470-87-8383
営業時間:10:30~売り切れ終了
定休日:日・隔週月曜日
駐車場:10台



全国で評価されるようになったいすみ市の「移住・定住促進」活動

－3町合併から「地方創生」へ－

「地方創生」で注目を集める「移住・定住促進」

2005年に夷隅町・大原町・岬町が合併し、いすみ市が誕生してから10年が経とうとする2014年。政府に「まち・ひと・しごと創生本部」（地方創生本部）が設置され、主要施策のひとつとして「地方創生」が言われるようになりました。

この「地方創生」。全国的な課題と言われる「人口減少」と「東京集中」問題解決のためのもので、その具体策のひとつが「移住・定住促進」と言われるものです。

「官民協働」で早くから着手し、全国市町村で37位の「移住・定住促進」先進地域へ



ご存知の方もいらっしゃると思いますが、日本全国から見た場合、このいすみ市は「移住・定住促進」の「先進地域」と言われています。「田舎暮らしの本」2015年2月号掲載の「2015年版 住みたい田舎ベストランキング」で、いすみ市は「定住促進に積極的な295市町村」中、37位と高い評価をいただいているのです。2014年4月の時



点で1,718の市町村がありますから、いすみ市が全国的に見て、いかに成績がよいかがわかります。

行政と民間が両輪となって協働し、「移住・定住促進」に継続的かつ積極的に取り組んでいることが評価されているそうです。これから取り組もうとする自治体が「見本」とすることも少なくないと思います。なぜ、早くから着手できたのでしょうか。

実は、合併当時から、少子高齢化と東京への人口集中化の影響により、耕作放棄地や空き家の増加、里山の荒廃やコミュニティの崩壊が進み、各産業の衰退も指摘されていました。

そこで、合併を機に、2006年度より市では「移住・定住促進」に限らず、「市民参画」、「官民協働」を実践する取り組みがはじめられました。

「民」の受け皿のはじまりは3地区商工会青年部の勉強会

これに呼応するかたちで、夷隅町・大原町・岬町3地区の商工会青年部（現いすみ市商工会青年部）が集まり、この取り組みに参加しました。「協働でのまちづくり」の精神を広め、市民、特に若年層による「まちづくり」への関心・注目・興味・理解を深めるための勉強会が2年間実施されたのです。

環境・地域資源・観光などのテーマに分かれ、参加者は各商工会青

年部員、市民のみならず、市長、市議会議員、市職員ら行政関係者にまで広がりました。

この勉強会の結果、自発的にまちづくりにさらに取り組もうと言う多くの声があがり、青年部有志と市（役所）の若手職員などで2007年「いすみ市まちづくり推進協議会」が設立されたのです。



協議会からNPO法人の設立、「移住・定住」活動本格始動

この協議会では、いくつかのグループに分かれ、事業化なども含め、2年間まちづくりに関するアイデアを出し合いました。最終的には、花・景観部会、食部会、里海・里山文化部会、移住定住部会・情報発信部会に分かれて熱心に議論がなされました。

中でも、移住定住部会で活発な意見が交換され、具体的な活動実現に向けての動きが加速。2008年に、NPO法人いすみライフスタイル研究所が設立されました。

設立当初から、地域資源を活かした移住・定住に関する相談や体験・交流ツアーの実施、情報発信、デジタルショートムービー作成などに取り組んで来ました。

そして、この活動が本格化するのが、2010年。ふるさと雇用再生特別基金を活用した「いすみ田舎暮らし情報発信事業」からです。

ホームページ「isumi-style.com（いすみスタイルドットコム）」やこのニューズレターなどでの情報発信、移住・定住促進ツアー・イベントの開催、移住・定住相談窓口の開設（日曜、祝日以外）を行うこととなりました。

この活動が認められ、「2015年版 住みたい田舎ベストランキング」では、東日本の「田舎暮らしお助け団体」68の中で、「移住者向け各種サービスの充実度部門」第1位に選ばれるまでになりました。

もう一つの「官民協働」の受け皿、いすみ市定住促進協議会

商工会青年部の動きとは別に、もうひとつ「官民協働」の活動があります。2009年に設立されたいすみ市定住促進協議会です。こちらは、市民、NPO、商工会、企業、学識経験者、県、市等により構成されました。

こちらでも、ホームページ「いすみ暮らし情報サイト」や体験プログラム、いすみ暮らしセミナー、移住・定住相談窓口の開設(日曜日のみ)などを行っており、当NPOの活動とお互いに補い合うかたちで「移住・定住促進」に努めています。



「地方創生」へ向けて

3地域商工会青年部合同の活動から10年。NPO法人の設立から7年を迎える中で、「移住・定住促進」施策の次なる手として、市の委託事業として「お試し居住」に取り組みはじめました。この制度は、いすみ市に移住を考えている人を対象に、試しに短期間滞在していただくものです。いすみ暮らしを体験していただくことで、移住への心理的ハードルを低くし、移住につなげることを目的としています。



また、英語での情報発信も開始。2020年の東京オリンピックと社会のグローバル化を睨んで、海外からの旅行者や移住者の増加を目標みます。

このように、先を見据えながら、「官民」が連携して「移住・定住促進」への取り組みを「絶え間なく」行っていることが、他地域から見たいすみ市の強みであり、魅力のひとつであるのかもしれない。

コラム いすみ市における官民協働「移住・定住促進」活動

1. 移住・定住相談窓口

いすみ市では、市役所庁舎裏手に、移住・定住相談案内所「いすみ暮らしサロン」を開設しています。移住を考えている人の相談に乗り、いすみ暮らしについての「よろず」情報を提供することで、移住への心理的ハードルを低くするよう努めています。窓口の開設時間は、日曜日が10:00~15:30(いすみ市定住促進協議会が担当)、平日・土曜日が9:00~17:00(当NPOが担当、2015年3月まで)となっています。祝祭日以外、常に移住相談窓口が開いているということが、利用者にとって安心感につながっているようです。

2. 移住・定住促進体験ツアー・イベント

都市部の方々を主な対象にして、いすみの魅力・良さを体験、体感していただくためのイベントやツアーを実施しています。都市部の人に人気の古民家、エコロジーに配慮したライフスタイル、いすみの食の魅力など、都市生活者の視点を重視したツアーを企画・実施しています。また、市民を講師に招いて、食や農、魚をテーマにしたワークショップ型イベントも提供しています。こうした体験プログラムを実施することで、田舎暮らしに関心の高い都市生活者にアピールし続けています。

3. 情報発信

インターネットの普及により、都市生活者への情報発信がやりやすくなり、主な発信手段として定着してきています。定住協のホームページ「いすみ暮らし情報サイト」では、移住者インタビューなどで移住者の声を掲載、移住を考えている人たちへ情報提供しています。当NPOでも「isumi-style.com」で、いすみ暮らしに役立つ情報を提供しているほか、いすみを身近に感じていただくために、小さい話題も頻繁に提供しています。最近では、多くの方に閲覧していただいております。毎日1,000人以上の人が「isumi-style.com」を見に来てくださっています。5年間情報を絶やさず提供してきた成果です。

4. 空き家バンク

人口減少に伴い、「空き家」も社会問題化してきています。いすみ市では、市内に点在する空き家物件を一軒でも多く、移住希望者等に活用してもらうことで移住・定住の促進を図り、地域の活性化につなげるため、市内協定不動産業者と協働で、「空き家バンク」制度に取り組んでいます。現在、いすみ市内に居住していない戸建て住宅を所有し、賃貸物件として提供して下さる方から登録された空き家の貸出し情報をホームページ等で公開するとともに、市内へ移住・定住等を目的として空き家の利用を希望する方に対して紹介を行う、マッチングシステムです。定期的に空き家見学会も実施しています。

5. お試し居住

いすみ市への移住を考えている人を対象に、無料で1週間程度の短期間滞在ができるプログラムを今年度から実施しています。この制度も、市内の空き家、空き部屋を民間に提供していただくもので「空き家」対策も兼ねています。そこに移住検討者に滞在していただき、実際にいすみでの暮らしがどういものであるのかを体験していただけます。利用者は、「空き家バンク利用登録」と毎日の日報、終了時のアンケート提出を条件に、無料で利用していただいています。

- いすみ市定住促進協議会
「いすみ暮らし情報サイト」
<http://www.uji-isumi.com/>
- いすみ市空き家バンク
<http://www.uji-isumi.com/akiyabank/>
- NPO法人いすみライフスタイル研究所
「isumi-style.com」
<http://www.isumi-style.com/>



●古民家ライフツアー



2014年11月5日に15名が参加して開催。移住者の方が実際に暮らしている3軒の古民家を見学しました。自分達で手入れを進め、草刈りに薪割りとやるのがたくさんで大変な時もあるけれど、そんな暮らしを楽しんでいる移住者の方々のリアルなお話を伺いました。参加者の皆さんからは、移住が現実的になったと感想も頂きました。

●いすみライフマーケット IN ちまち



今年度も、毎月第2日曜日に、旧千町保育所跡地にて「いすみライフマーケット IN ちまち」開催しました。最近あちこちで見かけるようになったマーケットとは違い、「販売と買い物」が目的と言うよりは、子どもたちを安心して1日遊ばせられる場として楽しんで

いただいています。運動会、迷路、餅つき、かるた大会など、子どもたちが喜ぶイベントが毎回充実。

●房総スターマーケット



房総のこだわりの作り手さんが集まる「房総スターマーケット」。2014年11月4日に、大多喜ハーブアイランドベジタブルガーデンにて、第7回が開催されました。パンやスイーツ、雑貨など魅力あるつくり手約50店舗が出店。マリオンネット劇場や大多喜

高校吹奏楽部の演奏などもあり、市内外より多くの方が訪れ、約1300名が来場し楽しめました。

●ちまち餅つき大会



お正月と言えば餅つき。2015年1月のちまちマでも開催しました。つきたてのお餅は「夷隅きやらぶき普及会」の手づくりのおしるこ、お雑煮、きなこもちになって大好評！ママさんグループや子ども達も多く賑やかでした。おいしいものを食べながら、おしゃべりの場にもなって「色々な出会いがあって良い」という嬉しいお声を頂きました。

●鍋ラン千婚活



あったかい鍋を囲んでいすみ市内外の男女の方にご参加頂き、2015年2月7日に開催しました。皆さん自己紹介では緊張気味でしたが、お鍋ができたら一気に場がなごみ…その後はババぬきなどのゲームで大盛り上がり。最後は参加者全員でお手紙を交換しました。出会いのきっかけになれ

たでしょうか？私達もその後が気になります。

●いすみの魅力発信・墨田区出張体験イベント



2014年10月、「NPO法人燃えない壊れないまち・すみだ支援隊」よりお声掛けを頂き、墨田区内のコミュニティスペースにて夷隅きやらぶき普及会のみなさまを講師に招き太巻きづくりを開催。郷土料理体験を家の近くで体験できると大変好評でした。第2弾として、2015年1月には炭

を使ったお飾りづくりも開催しました。

●ちまちクッキング教室「おせち料理」



2014年12月12日のちまちマにて、「夷隅きやらぶき普及会」の皆さんによるクッキング教室が行われました。今回は、作ってみたいけど今までなかなか手が出なかったという方も多い「おせち料理」。伊達巻きや昆布巻き、栗きんとんなどの昔ながらのお料理

を初めて経験される方達もいて、とても楽しんで下さいました。

●いすみの魅力発信・市外イベント参加



都市生活者に、いすみのことをもっと知っていただくために、情報発信のために市外のイベントに参加してきました。2014年11月22日、四街道市文化センターで行われた「ユニバーサル農業フェスタ」。同12月13日、アリオ蘇我で行われた「いすみ市フェア」。2015年1月24、25日に海ほたるで開催された「スプリングフェスタと蔵開きPR」に参加し、たくさん

のパンフレットを配布したり、アンケート調査を行いました。



編集・発行 NPO法人いすみライフスタイル研究所

〒299-4692 千葉県 いすみ市 岬町長者549 (いすみ市役所岬庁舎内)

J R外房線長者町駅下車徒歩10分

平日・土曜日 8時30分～17時まで

Tel 0470-62-6730

Fax 0470-62-6731

Website ☞ <http://www.isumi-style.com>

E-mail ☞ isumi-style@bz03.plala.or.jp

2015年3月 第11号 不定期発行 発行責任者 高原和江

メールマガジン「isumi-style通信」は、携帯からも購読できます。

QRコードからアクセスして、お申し込みください。



【会員募集中】

当NPOでは、持続可能な地域づくりに向けて、一緒に活動する、又応援してくれる会員(正会員・賛助会員・サポーター会員)を募集しています。

詳しくはサイトをご覧になるか、NPO事務所に問い合わせください。